

# 【中学校・1年・社会・「南アメリカ州～環境と開発～」】

## 育成を目指す資質・能力

A 1 (教材の提示)

C 1 (発表や話し合い)

- ・開発をめぐる問題と環境破壊の密接な関連を一面的にではなく、多面的・多角的に考察することができる。
- ・アマゾン地域のよりよい開発について、自分なりの見方・考え方で課題解決に取り組もうとしている。

## ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 プレゼンテーションソフト 学習支援ソフト

- ①自分の考えを記録し、ポートフォリオを作成する
- ②考えを共有し、よりよい考えや表現への気づきを得る
- ③教師側の指導と評価の一体化のため、提出されたプレゼンテーションソフトにコメントを入力して生徒に返信する
- ④ポートフォリオを数値化し評価に活かす

## 本時の学習の流れ

## 事例の概要

(導入) プレゼンテーションソフトを共有し、授業者が現地に行ってきた様子を視聴

導入・展開1 プレゼンテーションソフトを共有し、資料を提示

効果：遠くの大型画面で共有するよりも、手元の画面で見られるため、わかりやすい。

(展開1) ロールプレイで一人一役になりきり、開発に携わる人々の視点(思い)を知る。話し合いに使用する地図を共有

展開2 自分の考えをプレゼンテーションソフトに入力

→授業者に提出→学習支援ソフトで共有

効果：手軽に打ったり消したりできるため、生徒はよりよい表現を求め、粘り強く題材と向き合った。すぐに画面上で意見を共有でき、より多くの表現に触れることができた。

(展開2) アマゾンでの開発はどのように進めていくべきか? グループで話し合い→自分の考えを入力→共有

まとめ ポートフォリオに本時でわかったことを入力→提出

→コメントを添えて返却 →生徒は表現方法の改善

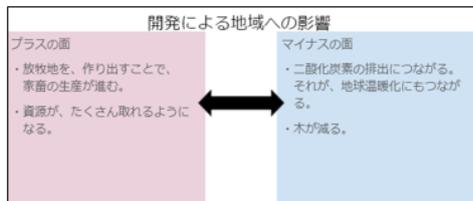
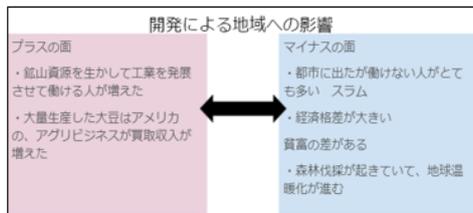
→指導者は評価、授業改善に使用

効果：手書きで行っていた添削をパソコン上で行うことで時間短縮を図ることができた。そのまま数値化して評価に使用した。

(まとめ) ポートフォリオの作成  
本時の学習でわかったことをプレゼンテーションソフトに入力し、提出する

# 【中学校・1年・社会・「南アメリカ州～環境と開発～」】

## 【事例におけるICT活用の場面①前時のまとめ】



## 【事例におけるICT活用の場面②本時のまとめ】

アマゾンでの開発は、どのように進められるべきか?  
環境に影響を与えるため、開発を進めないべき。陸地を削って海に埋め立て、できた土地に植物が植える。埋め立てるまでに使う燃料はバイオ燃料を使う。

アマゾンでの開発は、どのように進められるべきか?  
進めないほうがいいと思います  
森は生物にとって調場のはたらきもしています  
また人類にとっても酸素を作り二酸化炭素排出量を少なくする働きをしていますこのまま地球温暖化が進むと開発するどころではなくなってしまいます

アマゾンでの開発は、どのように進められるべきか?  
開発する場所の近くの村から許可を取り不法な森林伐採をなくせば、ブラジル政府や企業、先住民も納得して進められると思う。  
開発関係者全員が納得してからすすめるべきだと思う。

アマゾンでの開発は、どのように進められるべきか?  
広大な自然や、流域面積に恵まれた「アマゾン川」。そのアマゾン川の周辺の集落の先祖代々受け継がれてきた文化を、守ることを前提に、開発をすすめるべきだと自分は考える。自分ができることは、実際に現地に行き、まずは、現状を知ることが大切だと思う。現地の人にも、話を聞き、考える「とても重要な国際問題」だと思う。だから、しっかり考えた。

## ICT活用のポイント

### 【ICTを効果的に活用するためのポイント】

大前提：紙ではなくICTを活用する効果・意図は何か？

・「共有」のためのツールとして活用

・ICTを活用することで、教師側の作業の効率化を図る

指導と評価の一体化に絡め、生徒のポートフォリオにパソコンでコメントし数値化してそのまま評価に生かせるようにした。

### 【生徒の様子】

・よりよい表現を求めて、生徒たちは何度も入力したり消したりしていた。

この粘り強さは、ICTならではのかもしれないと感じた。自分の意見と向き合う「沈黙の時間」があったからこそ、その後の意見共有に意欲的に臨むことができた。

・ICTに書き出すことで、感覚から認識に落としていくことができた。授業者が意図的にシンキングツールを用いる等、一手間かけてシートを工夫することが大切。

### 【課題点と留意事項】

・文章ではなく、箇条書きでまとめる等、より効率的な使用を模索

・効率よく考えをまとめるためのICT活用→その後話し合いに時間をとる

・ICTありきの授業ではなく、使用する意図を授業者が持つことが大切

・ローマ字入力が難しい生徒への配慮

・ルールの徹底と情報モラルの指導

ICT活用事例 AI（教材の提示）、CI（発表や話し合い）

## 中学校1年・社会科 「南アメリカ州～環境と開発～」

使用機器：1人1台端末

使用アプリ：プレゼンテーションソフト  
学習支援ソフト

### 〈ICT活用のポイント〉

大前提：ICTを活用する効果・意図は何か？を常に考える。

①従来通り、紙に記入することや話し合いでの意見共有も併用し、目標に達するための方法の1つとして、ICT活用を考える。

→本時では「共有」のためのツールとして活用しようと考えた。

③ICTを活用することで、教師側の作業の効率化を図る。

→本単元では指導と評価の一体化に絡め、生徒のポートフォリオに1人1台端末でコメントし、数値化してそのまま評価に生かせるようにした。

### 1 単元の目標

- ・南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を自然、歴史的背景、生活文化、産業の面から大観し理解する。
- ・地球的課題である「森林の保護と開発」の在り方をめぐる問題について、ブラジルにおける事例を通して、必要な情報を適切な資料から読み取りまとめ、理解する。
- ・南アメリカ州で見られる地球的課題(森林の伐採)の要因や影響、及び解決に向けた取組の在り方を、ブラジルにおける森林の伐採と開発の関係に着目し、地域的特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・よりよい社会の実現を視野に森林保護と開発をめぐる課題に対して、自分たちの生活とのつながりを踏まえ、主体的に追求し解決しようとする態度を養う。

### 2 単元の評価規準

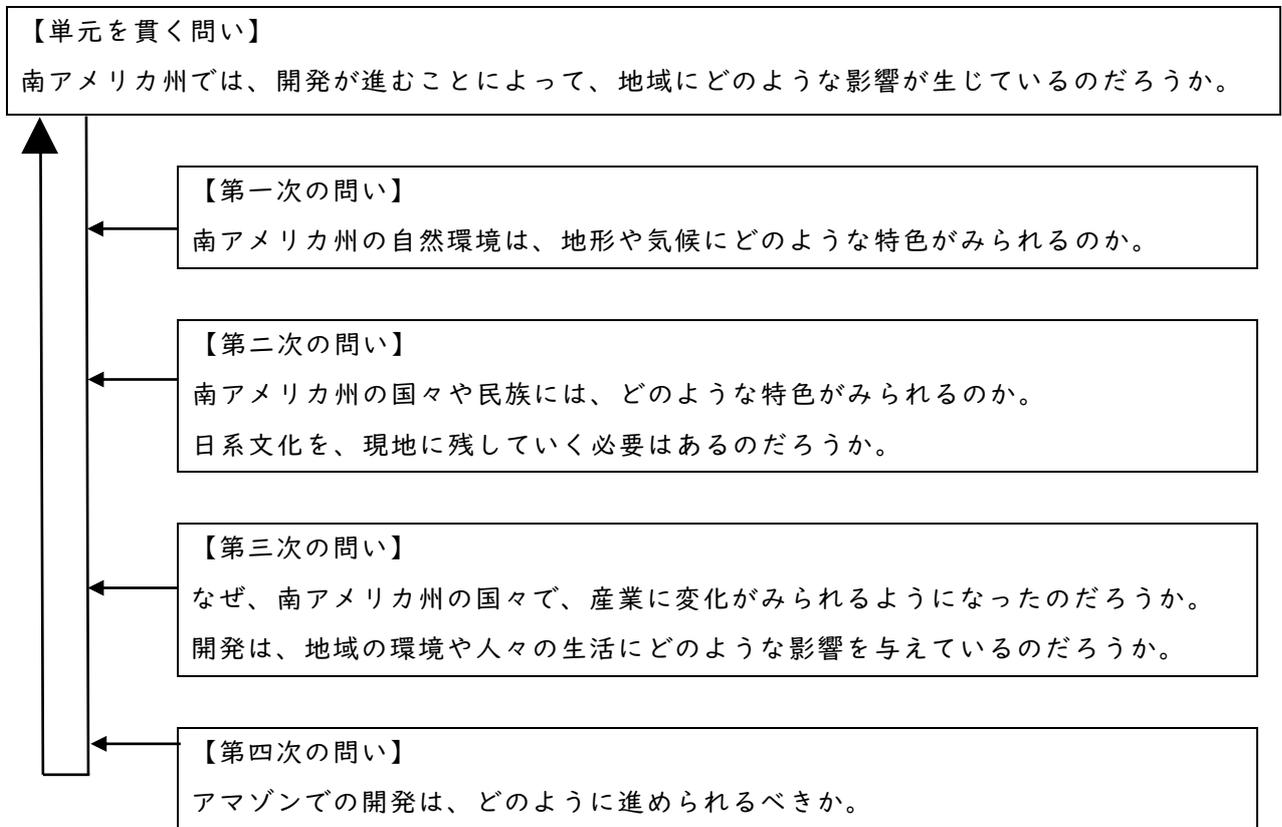
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長について理解するとともに、発展の一方で経済格差や環境破壊などの問題が生じていることを、本文や資料から調べ、まとめている。	・ブラジルで経済成長が続いている要因と熱帯林の減少の背景を関連づけて考察し、その解決策を多面的・多角的に考察している。	・近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発による環境問題について主体的に追求しようとしている。

### 3 単元について

本単元の前半では、南アメリカ州の自然環境や歴史的背景、産業について学習していく。特に、歴史的背景については、日本から南アメリカ大陸に移住した人々がいる、日系移民について取り上げ、日本と南アメリカ大陸の繋がりを発見させたいと考えた。

本単元の後半では、ブラジルにおける開発と環境保護という課題について、様々な立場から、多面的・多角的に追究し、多様な立場の意見を踏まえながら、考察させたい。そのためには、ブラジル政府、先住民、企業、環境保護団体など、この課題に対する多様な立場での意見を知り、この地球的課題の複雑さに気付かせたい。その上で、どのように開発を進めていくべきなのか多面的・多角的に社会的事象を捉えながら、一人一人の意見をもたせていきたい。また、日本とブラジルのつながりから、「開発と環境保護」の問題は自分たちの生活との関わりがある問題であることに気が付き、持続可能な社会の実現のために、ブラジルの課題を自分事として捉えるきっかけとしたい。

### 4 単元における問いの構造



### 5 本時について

#### (1) 目標

- ・開発をめぐる問題と、環境破壊についての密接な関連を、多面的・多角的に考察することができる。【思考・判断・表現】
- ・アマゾン地域におけるよりよい開発について、自分なりの見方・考え方で課題解決に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

#### (2) 本時の展開

○ 「評定に用いる評価」

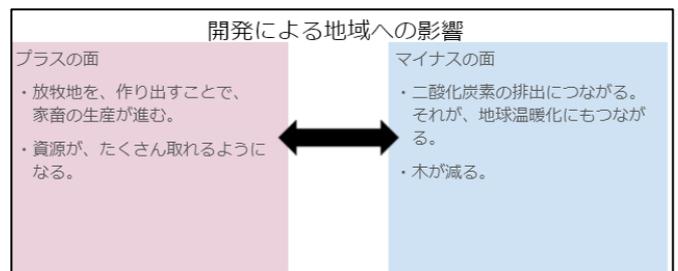
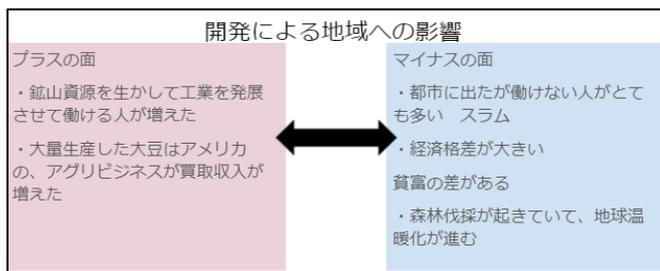
● 「学習改善につなげる評価」

	主な学習活動等	指導上の留意点・評価方法
--	---------	--------------

導入	<p>1 担任がアマゾンに行ってきた様子をスライドで視聴する。</p> <p>2 アマゾンの森林が伐採されていることについて、前時の確認をする。</p> <p>3 本時のめあてを知る。</p> <p><b>開発と環境について、自分の考えを持とう</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援ソフトを使用</li> <li>・プレゼンテーションソフトを画面共有する。</li> <li>・前時の授業の最後にまとめたものを共有する。</li> </ul>
展開1	<p>4 ブラジルのアマゾン開発について、開発に携わる人々の視点(思い)を知る。</p> <p>一人一役になりきり、情報をグループの仲間に伝える。そのまま、アマゾンの開発を進めるべきかどうか、その役になりきって、話し合いを進める。</p> <p>5 どのような立場の人がいるのか整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援ソフトを使用</li> <li>・プレゼンテーションソフトで、現地の地図を共有する。</li> </ul>
展開2	<p>6 役割を解除し、アマゾンでの開発をどう進めていくべきかグループで話し合う。</p> <p><b>アマゾンでの開発は、どのように進めていくべきか？</b></p> <p>7 自分の考えをプレゼンテーションソフトに入力し、提出する。</p> <p>8 学級で個人の意見を1人1台端末で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アマゾンでの開発は、どのように進めていくべきか、開発業者や地元住民、政府の視点を踏まえて考えている。</li> </ul>
まとめ	<p>9 本時の学習を振り返り</p> <p>今日の授業でわかったことは何かワークシートに記入する。</p> <p>10 地球規模の課題に「多面的・多角的視点」で考える必要がことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開発と環境保全について、立場によって考えが違おうというの向き合い方や、知らなければいけないことは何かを意欲的に考えようとしている。</li> </ul>

### (3) 前時のまとめ(ポートフォリオ)

ポイント ①入力シートはシンキングツールを参考にした。 ②箇条書きでまとめて作業を効率化した



### (4) 本時のまとめ(ポートフォリオ)表現や内容理解に誤りが見られたら、コメントで伝える

アマゾンでの開発は、どのように進められるべきか？

開発する場所の近くの村から許可を取り不法な森林伐採をなくせば、ブラジル政府や企業、先住民も納得して進められると思う。

開発関係者全員が納得してからすすめるべきだと思う。

アマゾンでの開発は、どのように進められるべきか？

広大な自然や、流域面積に恵まれた「アマゾン川」。そのアマゾン川の周辺の集落の先祖代々受け継がれてきた文化を、守ることを前提に、開発をすすめるべきだと自分は考える。自分ができることは、実際に現地に行き、まずは、現状を知ることが大切だと思う。現地の人にも、話を聞き、考える「とても重要な国際問題」だと思う。だから、しっかり考えたい。

アマゾンでの開発は、どのように進められるべきか？

環境に影響を与えるため、開発を進めないべき。陸地を削って海に埋め立て、できた土地に植物を植える。埋め立てるまでに使う燃料はバイオ燃料を使う。

## 6 ICTの効果的な活用について

指導者がどのような意図をもってICTを活用するか、が大切だと感じた。本実践では、これまで通りの紙を用いて活動する場面と、情報共有のために1人1台端末を使用する場面とを明確に分け、授業を計画した。ICTは主に情報共有、まとめの作成、評価のために使用した。

情報共有やまとめ作成のためのICT活用では、指導者がプレゼンテーションソフトで作成したスライドを学習支援ソフトで画面共有した。これまでは大型画面で共有されていた資料を手元で見ることができ、生徒たちの集中や興味関心が強くなったことを感じた。

単元を通して、1時間のまとめを生徒一人一人がプレゼンテーションソフトでポートフォリオにまとめる活動を行ってきた。それらを学習支援ソフトで共有し、学級や学年の生徒の表現や考えを交流した。ポートフォリオを入力する生徒の様子は、ボタン一つで消すことが可能だからか、紙に記入するときよりも、何度も文章を打ち直し、よりよい表現を求めているように感じた。その沈黙の時間に、自己との対話が進み、考えが深まっているように感じた。この時間があったからこそ、その後の意見共有に意欲的に臨むことができた。また、あえて箇条書きで簡潔に表現するなど効率よく考えをまとめ、その後話合いに時間をとるようにすると、ICTを使用する意義が大きくなると感じた。

ICTを活用することで、指導者側の作業の効率化を図ることも試みた。指導と評価の一体化に絡め、生徒のポートフォリオに1人1台端末で改善ポイントをコメントして返却することで、今後の表現方法の改善や指導者の授業改善に繋げた。また、そのポートフォリオを数値化して、そのまま評価に生かせるようにした。

指導者が意図的にシンキングツールを用いる等、一手間かけてシートを工夫することで生徒の理解が深まった。自分の意見を考え、まとめていく過程で、感覚から認識に落としていくことができた。そのためには、事前に単元計画を練り、効果的な発問と、視覚的にわかりやすいシートを作成する必要がある。

また、生徒と情報モラルの向上やルールの徹底には力を入れ、教師間で連携をとる必要があると感じた。指導者の画面上に生徒の画面を表示しない限り、生徒の開いている1人1台端末が壁となり、どのような作業をしているのかが見えにくい。ICTを活用し、授業をより効果的に進めるために、指示と異なる作業をしていた時には、毅然とした態度で指導する必要がある。互いに信頼して1人1台端末を使用するためにも、生徒の規範意識を高め、用いるべきだと感じた。また、ローマ字入力が苦手な生徒に配慮するなど、これまでの授業と同じく、声かけや机間巡視を大切にしていきたい。

1人1台端末の発達は今後も進化し、授業方法はさらに変化していくことが考えられる。しかし、丁寧に机間巡視をしたり、本時の目標を達成するために必要な手立てを考えたりすることはこれまでと何も変わらない。道具ありきの授業ではなく、目の前の生徒の成長を願い、意図を持ってICTを効果的に活用する実践をこれからも行いたいと考えている。